

ニュージーランド英語におけるマオリ語

横瀬 弘幸*

Aspects of the Maori Language in New Zealand English

YOKOSE Hiroyuki*

Abstract

In daily conversation in New Zealand, the Maori language comprises only five percent. In fact, however they use and speak more of the Maori language, a lots of words and phrases in daily life. This paper examines the grammar of the phrases, the indefinite article, the definite article, indefinite phrases and common definite phrases, uses of personal pronouns, locative particles, position and meaning of the locative particles, definition of locatives, and so forth.

抄 録

ニュージーランドの現在の人口比率は総人口360万人、マオリ人52万人となっている。英語が95パーセント占めているが、減少しているとはいえ現実生活中で今なおマオリ語が使われている。それは、マスコミを見ても解る。実際にどのくらいマオリ語が受け入れられ、借用されているだろうか。文法的見地から次号にわたり検証してみる。

キーワード：ニュージーランド英語、借用語、マオリ語、言い回し、代名詞、固有名詞

1. 借用語としてのマオリ語

ニュージーランド英語の特徴を Deverson, (1984) は次のように述べている。

Loan words from Maori make up the most outstanding feature of the distinctive New Zealand English vocabulary. Maori words are genuinely specific to New Zealand alone, borrowed

here and with very few exceptions known only here on their home ground(Deverson, 1984)¹⁾

ニュージーランドの人々は実際にどのくらいマオリ語を受け入れ、借用しているのだろうか。消極的な借用(Deverson, 1984)であると言われているが、そうは思わない。中学校、高校でマオリ語を学んでいる生徒は一割いる。特に政府の方針でもあると考えられるがマオリ語ひいてはマオリ部族に対する扱い

* 情報コミュニケーション学部情報メディア学科、Tsukuba Gakuin University

に気を使っているのが生活の中で感じられる。地名、動植物、日常の挨拶にも借用は見られる。例えば、Kia ora という語は、ニュージーランドの人は初対面の人に使う。つまり、英語で言う Hello にあたると思うが、別れ際にも使うのである。

Maori: Kia ora!

Phonetics: Key ora Key-as in "key" "bra-like" "aura"

ジャーナリズムを中心にマオリ語の発音を忠実にしている。マオリ語はアルファベットの < B, C, D, F, G, J, L, Q, S, V, X, Y, Z > の13個で始まる語はない。1946年 Anderson は次のように述べている。“Many Maori words are now in such common use that they may be regarded as incorporated in the English language. It is felt that for many of the words there is no longer any need for the italic, seeing that most of our readers will have them in their English vocabulary, spoken or written.”²⁾

Anderson はよく知られている245のマオリ語を次のように示している³⁾。以下ニュージーランド英語におけるマオリ語の借用語である。

(Flora and Fauna)	
Trees and Plants	93
Birds	51
Fish and Marine Life	19
Other Animal Life	9
Food	2
(Society)	
People	9
Maori Concepts	58
Phrases	3
Miscellaneous	1
(Total)	245

ニュージーランドでよく使われるマオリ語は以上のように、動植物、鳥類、海の生物であ

る。マオリの概念は最も彼らの社会や、生活の特徴を表している。海の生物と比べるとはるかに海の生物のほうが多い。その数は2倍と言ってもよい。

Anderson, 1946 Hirsh 1989, の資料のそれぞれの意味カテゴリーについて比較する⁴⁾。

	Anderson	Hirsh
Flora and Fauna		
Trees and Plans	38.0	7.6
Bird	20.8	7.6
Fish and Marin Life	7.7	5.1
Other Animal Life	3.7	2.5

以上の分析を見ると、ニュージーランド英語に入っているマオリ語の借用語の比率がわかる。ニュージーランド文化にマオリ語は深く入り込んでいるのがわかる。ポリネシア系言語の音節で、一般は発音し、生活の中に取りいれているのが不思議なくらいである。

又、Maori, Kiwi などの語はニュージーランド人を意味している。Maori はマオリ人と、マオリ語を意味するが、Kiwi は飛べない鳥と、ニュージーランドの国そのものを現している。また、マオリ語は複数形は取らないはずだが、ニュージーランド英語にみられる。

200年の歴史の中で、マオリ語はニュージーランド英語と深くかかわり、マオリの文化を今なおニュージーランドにもたらしている。具体的に考察してみると次のような事が判明した。マオリ語は核となる部分と、迂言法とから成り立っている。核は言葉の中心として考えられ、当然その語彙の意味を含む。

2. 言い回し表現

迂言的な表現は核に優先して、後に続く言い回しである。言い回しの表現はその文法的意味を含み、また、示し、例えばそれが単数か、複数か、動詞的か、名詞相当語句か、過

去か、現在かなどである。

言い回しは常に核を含む。言い回しの中には核を先行している語やその他数々の語が生まれる。核だけが残る場合は少ない。言い回しの核を先行する位置は迂言としてとられていたものと言われ、核の後に来ると云われている。

Maori Words は 2 つの種類と基礎となる部分と不定化詞とに分けられる。基となる部分は語彙や真の意味を示している。whare は家を表し、pai は良いという言葉を示し、それらの言葉は言葉の基となる。一方、kai は不変化詞である。そして、その言い回しは逐語的であり、その意味は語彙よりも文法的だと言える。いくつかの不変化詞は文法的な関係と機能を示し、別の不変化詞、特に後に作られた不変化詞は基本的な意味を制限し、定義する。Bases(語源)は常に言葉の核の中にあり、一方不変化詞はある例外と言い回しの中におきる。

ka	pai	
te	whare	nei
	haere	mai
ki te	whare	
kei	hea	
to	kaainga	
kei	Akarana	
tooku	kaainga	

上記の言葉 pai は good を意味し、口頭上の不変化詞 ka によって、動詞的に使われることが示されている。したがってその言葉は “is good” と訳される。次の語の核は whare すなわち “house” を示す。言い回しの不変化詞 te は “the (one) house” と言う。

次の nei は 派話者に近づき、全体の語は this house に訳される。上記三つ目の語は英語にある come and go の両方の意味を持つ語である。しかし、不変化詞 mai は話者に向

かっての動作で、haere が ‘come’ と訳される場合を示す。全体の言葉は come here とか come hither となる。次の whare は核となる部分に再度あらわれる基となる。迂言の中に二つの不変化詞があることがわかる。ki は方向を示し、te は、“その、” または、“ひとつ”、を示すので、‘家へ’ と訳される。次の語は hea は現在の地点を意味する kei の不変化詞により先行される。次の語 kaainga は home の意味をなし、your に対して、不変化により先行される。文字通り、at where your home? where is your home? の意味である。次の Akarana は地名 Auckland を示している。kaaing は home の意味でまた tooku は my を意味し、my によって先行されている。ゆえに、My home is at Auckland. となる。全てのマオリ語は口頭語または名詞相当語句である。口頭語は ka pai にみられるようなもので、haere mail のような命令的な抑揚で示される。口頭語でない語は名詞相当語句である⁶⁾。

名詞的な句として例を挙げると

ki te whare	to the house
te whare	the house
kei hea?	where?
kei Akarana	at Auckland
to kaainga	your home
tooku kaainga	my home

動詞句

ka pai	(it is) good
haere mail!	come here!

動作や状況は動詞で表されることは言うまでもないが、動作や状況の時制について述べていない。たいていの他の動詞は時制はなく、唯一過去を示す i は 自制については曖昧である。他の動詞は自然に対して言及して、動詞句によって示された状況や動作の аспек্টに言及している。動詞はまた語形変化を作る。一つは動詞句を活用させるため別のものにとって代わるかもしれないが、二つの動詞

が同じ句の中で使われることはない。

- Ka ka は特に時間について明確さはないが、未来の時制に用いられる。
- I その動作は過去形である。
- Kua その動作は完璧で、明らかに過去の時制である。
- Kia 何かが起きて、あることが存在することを望むのに用いられる。従属節では kia は目的を表す。
- Me 何かが行われたり、行われるはずと規範的に用いる。
- E 過去、未来や動作を表す。
- Ina-ana Ina は従属節のみに用いられる。また、一つの動作が起きるその時点を示し、起きたらという条件を示す。

3 . 代名詞、固有名詞

代名詞について云うと、英語とマオリ語を比べてみると、英語は三人称を代名詞の中で用いるが、マオリ語は四人称で、性やその区別はない。又、複数代名詞について云うと、マオリ語は二人称のみに言及する。それらは taaua と maaua である。英語では三人称で区別し、マオリ語の代名詞としての人は、相手を含む最初の人との間を we とする。Taaua は我々二人を言い、maaua は二人を意味するが、相手は you ではない。すなわち、ほかの誰かと私である。

- E haeru ana taaua, ki te taaone.
(我々二人、貴方とわたしは、町に行きます)
- E haere ana maaua, ki te taaone.
(貴方でなく、我々二人が町に行きます)
- I tuutaki maatou, ki a Heta, i te taaone.
(貴方でなくて、私たちは Heta で会いま

した。

文の主語としての代名詞は、普通の冠詞 te, nga, he そして個々の名前のようなものでなく、異なった個人名等は使われない。

- I oma atu raatou!
(彼らは逃げ去った)
- E poowhiritia ana taatou.
(我々は歓迎されている)
- He rangatira ia, he ware ahau.
(彼は上司です、私は部下です)
- He waahine raatou, he taane taatou.
(彼らは女性です、私たちは男性です)
- 名詞が kei, i, ki, hei, などの冠詞を伴うとき、適切な冠詞は a である。

- E titiro ana ahau ki a ia.
(私は彼を見ています)
- I hariruu maatou ki a raatou.
(我々は彼らと握手をした)
- Kua mate koe i a au.
(貴方は私に負けている)
- E whai ana maatou i a koutou.
(我々は貴方を追いかけている)

代名詞 ia, の前に置く冠詞 a の使い方は文中の主語であり、マオリ語に今や広く普及している。不変化詞 ki は常に句のはじめにつける。それらは、時間と、空間を示す要素がある。ki は時間と空間に向かっての動作を意味する。それは時々英語の to の意味に訳される。

- E haere ana au, ki te whare miraka.
(私は乳絞りに行くところです)
- kei は現在を示す。それらは at, on, with の代わりをする。

- Kei te whare-nui te tangata, inaiane.
(その男はいま会議所にいます)

I は常に過去を示す。

I te whare-nui te tangata, inanahi.
(その男は昨日会議所におりました)

Hei は未来を表す。

Hei te whare-nui te tangata, aapoopoo.
(その男は明日会議所に来るでしょう)

又、固有名詞や代名詞に続く ki, kei, i, または hei は冠詞 a をとる。

Kei a Pita te toki, inaianei.
(ピーターは今斧を持っている)

I a Pita te toki, inanahi.
(ピーターは昨日斧を持っていた)

Hei a Pita te toki, aapoopoo.
(ピーターは明日は斧を手にする)

I karanga atu, a Ani, ki a Arapeta.
(アンはアルバートを呼んだ)

しかし、Wanganui 川地域や東海岸周辺は kei, hei の形は kai, hai に取って代わっている。例えば、

kei te taha moana nga kootiro.
(少女達は海辺にいる)

I te ahiahi ka moe te kuia.
(夕方老女は眠った)

I te kaainga maatou, inapoo.
(私達は昨晚家にいた)

Hei te ata poo, ka hoki a Paania, ki te moana.
(夜明けにバアーニアは海に戻ってきます)

I te ata tae maatou ki Te Reinga.

(私達は朝レインガに着いた)

Kei nga poo marama, e kitea ana a Rona me tana tahaa.

On the moonlight nights Rona is seen with her calabash.

(月夜にローナはヒョウタンを持っているのを見られた)

基本的所格は時間と空間に位置する。それらは、冠詞, 不定冠詞をとらないことで文法的に分類されている。又、ki, kei, i, hei, の所格を示す不変化詞の後に来るものとは違う。

Kei hea te rangatira?
(チーフはどこにいるの?)

Kei roto te rangatira i te whare-nui.
(チーフは会議所にいます)

Kei hea te pene?
Where is the pen?
(ペンはどこ?)

Kei runga, te pene i te teepu.
(ペンはテーブルの上にある)

Kei raro te pene i te pukapuka.
(ペンは本の下にある)

Kei hea te kurii?
(犬はどこ?)

Kei koo, kei tua i te whare.
(家の反対側のそこよ)

Kei waho te kurii i te whare.
(犬は家にいません)

なお、一般的な所格をまとめてみると次のようである。

ruga top, roto inside, raro bottom
 waho outside, hea? whea? where?
 konna there, mua front, before
 uta inland, tawaahi far side
 waenganui middle, taatahi seaside
 konei here, koraa there (yonder)
 muri back, behind, later
 tai seawards, tua far side
 reira there, that place, takaki aside

又、固有名詞は所格とみなされている。固有名詞は所格の後に起こりえる。

Kei pooneke maatou e noho ana.
 (私達はウエリントンに住んでいます)

万一、固有名詞が冠詞として、例えば、Te Kuiti のように用いられれば冠詞は不可欠の部分である。固有名詞が所格の後に用いられるときその冠詞は保たれる。

I hea raatou, inanahi?
 (昨日はどこにいましたか?)

以上マオリ語の借用語の分野から使用されている分野まで述べてきたが、ニュージーランド英語のマオリ語は確実にその位置を占め

ている。次号では更に使用方法についてのべることとする。

注

- 1) ボーダレス時代の外国語教育 (page 52) マオリ語の借用語引用
- 2) Ibid., page 54.
- 3) Ibid., ニュージーランド英語におけるマオリ語の借用語 page 57.
- 4) Ibid., page 63.
- 5) Let 's learn Maori, The grammar of the phrase (page 5).
- 6) Ibid., page 6.

参考文献

- 奥田祥子 ボーダレス時代の外国語教育
 Bruce Biggs Let 's learn Maori A
 guide to the Study of the Maori Language
 1969
 Bell, A. Homes, J. New Zealand. 1991
 Benton, R. The history and develop-
 ment of the Maori language. 1991
 Hirsh, W. New Zealand English. 1989
 Ngata, H.W. English Maori Dictionary.
 1993
 Williams, H.W. A Dictionary of the
 Maori Language. 1971